

令和5年度第2回名取市協働事業審査会会議録

- 1 日時 令和5年10月5日(木)13時30分～16時00分
2 場所 市役所6階 第1・2会議室
3 出席者 秋月委員長、林委員、中島委員、桜井委員、小畑委員、齋藤委員、青木委員、
事務局：小平部長、浅野課長、川上課長補佐兼係長、岩間主幹兼係長、浅野主事、岩淵
欠席者 なし
4 会議概要 下記のとおり

-
- 1 開会 進行：川上補佐
2 あいさつ 秋月委員長
3 審査説明
4 議題
① 名取市協働提案事業の提案プレゼンテーション審査について
② 名取市協働提案事業の集計結果並びに選定について
5 その他
6 閉会

3 審査説明

事務局

本日の審査は、市民提案型の審査となります。予算の枠のしぼり等はなく、「協働提案事業」として、ふさわしい事業を採択していただきたいと思っております。行政提案型につきましては、本年度の応募はございませんでした。なお、各団体の要件審査は、事務局で事前確認を終えております。提案内容については、団体と協働する課、事務局の三者による話し合いを経て、協働が可能と合意されたものです。

次に、審査会の進め方について説明いたします。

はじめに、提案プレゼンテーション審査について説明いたします。緑色のファイルの実施要項をお開き願います。実施要領に基づき、応募のあった3団体による提案プレゼンテーションを行います。各団体入れ替え制により行い、1団体15分の持ち時間で提案プレゼンテーション7分・質疑応答5分で進めてまいります。提案プレゼンテーションには、協働する課も同席いたします。すべてのプレゼンテーション後、休憩をはさみ、次第書の4②の選定に進みます。

続きまして、審査方法について説明いたします。実施要項の5審査方法と配布物の審査票をご覧ください。審査方法は、(2)①から⑤の審査の視点をもとに、5点満点として5段階で審査をお願いいたします。団体には、提案プレゼンテーションの中で審査の視点①から⑤については項目を立てて説明していただくようお願いしております。また、プレゼンに対する質問は、団体及び協働する課に対して行うことが可能です。なお、記入後の審査票は、3団体のすべてのプレゼン終了後に回収します。以上、審査について説明を終わります。

4 議 題

① 名取市協働提案事業の提案プレゼンテーション審査について

<プレゼンテーション>

I 特定非営利法人 地星社(協働する課:市民協働課)

特定非営利活動法人地星社です。提案する事業は、「なとり協働まちづくり工房—大人のための探求学習プログラム」です。地星社は地域づくり、社会づくりについて関わる人や団体を支援し、増やすことを目的として活動している NPO です。名取、岩沼を中心に活動していて相談・個別支援・調査・情報提供・協働の推進といったことを中心に行っています。解決したい課題ですが、地域活動に参加する機会や課題への理解を深める場面が必要だと考えており、名取市の長期総合計画にも出ているが、関心はあるもののまだ参加していない市民が3割程度いることや、やる気はあるが、次のステップのサポートが必要な方が結構いると感じています。そこで探求プログラムを行い、参加者が地域課題を調べて効果的な取り組みにつなげることを目指していき、そうしたことを伝えることによって仲間や協力者を増やし協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。

事業の概要ですが、探求学習のワークショップを行いまして、併せてインタビュー、フィールドワークを実施し、最後に発表会を行うとしており、参加者が自分の関心、テーマに基づいて問いをたてて自分で実際に調べ、参加者同士の協働ですとか、インタビューや発表を通して仲間や協力者を増やしていくことを目的としています。ワークショップ5回やる内容ですが、テーマを見つけ、問いをたてて情報を集めて、その情報を整理し最後は探求の成果をまとめるとしていて、今年度は協働提案事業の「協働のまちづくり実験室」ということでまちづくりのアクションプランをつくるということをやっていますが、その次のステップの方法として考えています。

協働することによるメリットですが、名取市においても長期総合計画で協働に意識づくりや市民活動の促進、地域活動団体の育成・支援を目指しています。地星社も団体の目的として私たちひとりひとりが地域づくり、社会づくりに関わっていく社会を実現しようということを謳っているのも、そういうところでも目的として重なるかなと思っています。市としては行政としての信頼性やリソースネットワークになるでしょうし、市民活動団体としてはワークショップのスキルやノウハウがあったり、市民活動団体として持っているネットワークがあるのでそういうところで協働の相乗効果があると思っています。

地星社の強みや実績ですが、昨年度 JOCA 東北、名取高校との協働事業で高校生が街歩きをして気になったものを自分たちで調べて発表するというプログラムを実施する際に地星社で企画とファシリテーションを行いました。今年度協働提案事業で行っている「協働のまちづくり実験室」で協働のまちづくりについて参加者同士で対話しながらアクションプランをつくるという企画を進めているところです。現在3回目まで実施して、次回から具体的なアクションプランづくりになっていきます。学生から現役世代、退職されたご高齢の方まで幅広い層が参加しています。

市民のニーズと実現性についてですが、協働提案事業で「地域ライター講座」「協働のまちづくり実験室」を実施してきました。地域づくりに参加したいがきっかけがない、心理的なハードルが高いという方が多いことを実感しているので、参加のきっかけを作って心理的ハードルを下げることで多様な市民の参加が期待できるかなと考えています。

費用対効果だが、このようなワークショップを実施してその中で具体の地域での活動、取り組みがでますと、多様な協働の取り組みが市の中でも生まれてきて、そうすると費用対効果が高くなるのではないかと考えています。

実施のスケジュールですが、月に1度のワークショップ、あるいはフィールドワークを実施して最後1月に発表会を行う、というようなスケジュールだとあまり無理なく進められるかなと考えています。

最後は費用についてですが、詳しくは申請書をご覧くださいと思います。

<質疑応答>

委員：いまひとつ何をしようとしているのか見えないのですが、具体的にどのようなことをなさろうとしているのでしょうか。

団体：具体的な内容としては参加される方が自分が地域で気になっているような地域課題についてテーマをたてて調べるために、文献の資料を見たり、フィールドワークでインタビューして、実際どうなっているのかまとめたものを発表するとしています。それを自分の地域活動のアクションに生かしていくというようになっています。

委員：そうすると20人が集まったとして、1回目に20人が一堂に会して自分のテーマを見つけようということですが、どうやってそれは話を進めるのでしょうか。

団体：ワークショップ形式で進めていくことを考えています。参加者同士で議論してもらい、場面やテーマを決めて話し合ってもらい、自分で調査するプランをたててもらおうと考えています。

委員：費用ですが、全体の費用の中でほとんどが人件費で占められています。スタッフ AB というのが表にある団体の活動に該当する2名だと思えますが、なぜ1人は日給でもう1人は月給になっているのでしょうか。また、スタッフ A は2日×10ヶ月としていますが、準備の時間ということでしょうか。

団体：日給と月給で分かれている件はフルタイムとパートタイムのスタッフがいて、賃金形態が違っているので、そういう分け方になっています。また当日動けばできるものではなく、事前にプログラムを作成したり、参加者との連絡などが日常的に入りますので、そういう準備の期間にはこれぐらいの時間がかかると考えました。「協働のまちづくり実験室」や「地域ライター講座」のこれまでの実績を踏まえてこれぐらいの時間がかかるだろうと見込み、入れています。

委員：今年度実施事業の次のステップとして行うという説明がありました。今年度実施事業は20名定員としていましたが、何名応募があったのでしょうか。

団体：正確な数は分からないが、定員に近い人数の申込がありました。応募者の他にグループファシリテーターが8名います。

委員：今回提案する事業は、今年度実施事業から引き続き行う方が多いのか、それとも新規の方もいるのか、そのあたりの見通しはいかがでしょうか。

団体：今年度実施事業から引き続き行ってもらえればいいなと思ってはいるが、全員がそういうわけにはいかないと思うので半数が参加できればと考えています。新規の方にもぜひ参加していただきたいので、幅広く広報したいと考えています。

委員：今年度実施事業に参加されている皆さんが地域課題と感じている点、トピックはどのような内容でしたでしょうか。

団体：居場所づくりに関心がある方が多いと感じています。地域の中で多様な人が交流できるコミュニ

ティづくりの場になれるような居場所づくりや、孤独・孤立している人を地域の中に出ないようにするというような点に関心を持つ方が多いと感じています。

委員：継続の観点から今後の展開が可能であった場合に、そういった方々の具体的の可能性はどのくらいありますでしょうか。

団体：まだプランづくりまで入っていないところなので既に自分で何かやりたいという気持ちがあって、事務局の手を離れて参加者同士で話し合っているようなグループもいるので、次のアクションに移りたいという気持ちを持っている人はいると感じています。

委員：そうすると想定している継続される方は個別のステップが必要になるが、そこは臨機応変に対応することは可能ということでしょうか。

団体：今年度実施事業も 1 回目から参加してもらえればそれはありがたいが、途中からでも面白そうだなと感じた方は参加可としているので、今回の提案事業も臨機応変に対応したいと考えています。

II キラキラパーク増田西（協働する課：クリーン対策課）

今回の提案は「増田川を知ろう」というものです。事業の概要ですが、増田川のハイキングマップを利用した観察会と環境保全活動資料を作成する活動になります。具体的には全4回の観察会を親子を含め定員30名ほどを募集し、開催したいと考えています。環境保全啓発素材として紙芝居を観察会の内容に基づいて作成、発表したいというものです。

事業目的と解決したい課題ですが、まず私たちの認識として増田川は水源から河口までが名取市にある川なので大切な自然であります。解決したい課題は、増田川の特徴や実態に対する市民の関心や認識が不十分であるとらえています。川の自然環境や生物の多様性を守っていく意識も希薄になっているところです。したがって目的は、参加者が増田川の水源地から河口までの全体図を把握して環境保全意識を醸成していくということになります。

具体的に全4回の概略をお話ししますと、まず第1回は下流域を歩き、堰や魚道などの川の摂理、水で生きる生物を観察できると考えています。具体的には下増田公民館を集合場所とし、公民館を起点に八間堀までを歩いてまた戻るといったような工程を考えています。第2回は中流域で、市民活動支援センターを起点にずっと川沿いを歩き、バイパスまで行って戻ってくるというような工程を考えています。ここでは川で生きる生物の観察を行いたいと思います。3回目は上流域で11月ごろに実施し、サケの遡上を観察したいと考えています。出発点は増田西公民館で十文字橋まで行って戻ってくるのを考えています。第4回目は川の水源地を目指し樽水ダムの親水公園を起点に歩こうと考えています。この全4回の観察の成果を踏まえて、教材としての紙芝居づくりを考えています。まず第5回として観察会参加者に披露し、その後、学校や公民館などで披露して環境保全を訴えていくこととしています。「増田川のあらまゝ」という紙芝居を作成しようと考えていて「あら」は鳥のたまごがあったみたいな発見を、「まゝ」というのは川にこんなごみが落ちていたみたいな様子を表現しているものです。

この事業における KPM の強みですが、増田川の保全を目的に 10 年間活動してきていて、清掃や

生物調査などの実績があります。これまでガサガサなどの事業で親子など若い方から参加していただいているのでその信頼感もあると考えています。

市と協働する理由ですが、増田川の環境保全という目的は共有していて、生物調査等の成果が活用できる点、広報誌等で広報ができる点があります。

期待する成果・効果ですが、参加者に増田川の特徴や実態を認識してもらって環境保護意識を醸成し、環境保全を推進していくことです。加えて環境保全活動資料を作成できることが挙げられます。

<質疑応答>

委員：今回 30 名ほどを募集するというのですが、子どもの参加はどのくらいになるでしょうか。

団体：家族で参加される方を想定しますと、子どもは参加人数の約半分くらいになると想定しています。

委員：今回も歩かれる機会が多いと思うのですが、事故防止や安全対策の作戦はどのように検討しているでしょうか。

団体：事前に消防署へ連絡し、救急救命士など知識を持った方を配置したり、また天候に左右されるものであるため、休憩場所を決めておいたり定点監視に努めたいと考えています。

委員：当日を迎えるにあたってコースの下見ですとか、皆さんの前後のご準備の時間があると思います。実施は申請書にある17名だと思いますが、うまく振り分けられていますでしょうか。

団体：スタッフはほとんど高齢ですが、新しい自分を見つけるべく頑張っています。

委員：参加者の中から皆さんの仲間に繋がるのもいいなと思っていたので、その点をお聞きました。

委員：5 回目の紙芝居の披露の件ですが、実際に紙芝居を作られるのは KPM の皆さんが作られるということでしょうか。それとも参加者も制作の過程に参加するということでしょうか。

予算書に紙芝居の作成指導とありますが、どなたか指導する方がいて、参加者の方が主になって作るということでしょうか。

団体：作成指導を受けながら、参加者が感じたことややったことを紙芝居にしようと考えています。作成するのは KPM の会員です。

委員：協働する課にお聞きます。市に期待する役割で広報等の周知とありますが、普段から活動の接点はあるのでしょうか。またこの活動に期待する点などあれば教えてください。

協働：令和 3 年度に増田川ハイキングマップを作成したり、協働提案事業で活動しておりクリーン対策課としては 2 回目の協働となります。また環境フェスタというものを開催しましたが、ご尽力いただき無事開催できた背景もありますので、今回も連携してやっていけるものと考えています。

Ⅲみんなで楽しくしよう会（協働する課：生涯学習課）

会の紹介を兼ねて動画を流したいと思います。普段は図書館の読み語りを主な活動にしています。その他には、他の会へ講師を派遣したり老人施設へ慰問、通いの場への訪問慰問をしています。図書館への読み語りは毎週木曜、月 2 回土曜日に 4 団体でローテーションを組みながら行っています。メンバーは月に何回か集まり、練習や予定を話し合ったりします。

なぜこのような提案をしたのかというと、私たちがお世話になった国際交流の先生、韓国語の先生、フラワーアートの先生、笑い文字の先生などのこの楽しい活動をもっと市民の方に紹介したいと思った

からです。できれば先生の地元の公民館で講座を開きたいと思います。市民の方に末永く人生を楽しんでほしい。人生120年時代に生涯学習は必要だと思います。

<質疑応答>

委員：これまでの活動はプレゼンでよくわかったのですが、今回されようと思っていることはお試し趣味講座というのが10回、各数種類行うという記載ですが、実際どのようなことを考えているのかということと、また対象としている20名はどのような方を対象に考えていますでしょうか。

団体：いろいろなパターンがあるが、夏休みの間は親子対象であったり、それ以外の時期は大人を対象とします。また実際に採択されないと講師の情報が把握できないため、今の段階ではどのようなことを行うか回答できない状態です。

委員：色々なものがあるけれども、市民の方がピンとこないものや、なかなか気づけないような講座を実際に体験してもらおうという趣旨でよろしいでしょうか。

団体：そういうことでございます。

委員：スケジュールについてです。毎月のように事業をされるようですが、大変ではないでしょうか、という質問と、先程具体的な中身はまだということでしたが、なかなか人集めが大変ではないかなという感想を持ちました。また申請書の支出の部分ですが、マナビ講師に講師謝礼を支払うという箇所ですが、講師によって額など変わってきますが10回の範囲内で支払うということでしょうか。

団体：連続開催は難しいのではないかとということですが、令和2年度の入門コースや、ひと月に毎週講座を実施したことがあります。今回も毎度土曜日の連続講座であることや、準備も団体とするわけではなく、お繋ぎするわけです。それぞれの先生が毎週やったら大変だと思いますが、毎回先生が変わりますので、心配はないかなと思っています。費用についてですが、この金額はマックスでと考えております。なるべくリーズナブルに済むようにバランスを取りたいと考えています。参加者の募集は協働する課に広報していただき、行政からお知らせいただくことで参加者を獲得したいと考えています。

委員：場所とやる事業はみんなで楽しくしよう会で準備して、参加者の募集は協働する課にお願いするという事業でしょうか。

団体：参加する方の確認、出欠などは団体で行います。ただこの事業で協働提案事業であるという広報などの後押しをお願いしようと考えていました。

以下、非公開

4 議 題

② 名取市協働提案事業の集計結果並びに選定について

5 その他

<事務局からの連絡>

6 閉 会

令和6年3月18日

委員長 秋月高太郎

